

社員の不祥事における広報対応のポイント

～ケーススタディを通して学び、明日からの危機管理広報に活かす～

●日時● 2014年 1月 22日(水) 13:30～17:00

●会場● 企業研究会セミナールーム(東京・麹町)

講師 株式会社エレックス 代表取締役/チーフ・コンサルタント 江良 俊郎 氏

【略歴】 危機管理広報、企業広報、メディア対応などのコンサルティング、ならびに緊急事態対応実務で25年超の経験を持つ現場派。大手広報会社ブラップジャパンを経て2001年arex設立。日本及び中国北京、上海で多くの企業の広報業務、危機管理体制構築業務のほか、事件事故、企業不祥事を多数担当。99年ニューヨークの大手広報会社ケッチャムカレッジでメディアトレーナー養成コース修了。現在も契約企業の企業広報業務、不祥事対応の第一線で陣頭指揮をとっており、多くの実際の危機対応経験を有している。09年、食品会社の危機管理対応事例が「PRワードグランプリ(部門最優秀賞)」を受賞。

日経ビジネススクール、日本能率協会マネジメントスクール(危機管理・企業広報実務)講師。経済広報センターでも危機対応トレーニングの講師を務める。(社)日本パブリックリレーションズ協会理事、日本広報学会理事を歴任。

近著に『ソーシャルメディア時代の危機管理広報』(財団法人経済広報センター編、分担執筆)、『広報・PR 実務』『広報・PR 概論』(社団法人日本パブリックリレーションズ協会編、分担執筆、同友館出版)。その他の著作に『謝罪力』(祥伝社)『経営を支える広報戦略 広報部長のための戦略と実務』(財団法人経済広報センター編、分担執筆、日本経団連出版)。『知らなかったでは済まされないビジネスマンのための危機管理術』(実業之日本社出版)など。

講師 株式会社エレックス 取締役副社長/チーフ・トレーナー 平野 日出木 氏

【略歴】 日本経済新聞社での15年の企業取材経験を生かし、2002年からarexにて広報コンサルティング、メディアトレーニング、危機対応業務に携わる。日経新聞では、自動車、鉄鋼、機械、エネルギー、運輸、企業財務、コーポレートガバナンスなどの業界・分野を担当記者として取材。産業部キャップ、産業部次長(日経本紙一面・企業面担当デスク)を経て2000年に退社。

arex参画後は、大手素材メーカー(外資/国内)、大手不動産(国内/外資)、大手食品メーカー(外資/国内)、商業施設、電鉄などの広報コンサルティング、メディアトレーニング、危機対応業務に従事する。2005年副社長兼メディアトレーニングチーフ・トレーナー。2009年取締役。2006年7月～2009年1月はソーシャル・ネットニュースの編集責任者を兼務、豊富なメディア経験を生かしたアドバイスに定評がある。

1985年早稲田大学政経学部卒、2002年カリフォルニア大学バークレー校ハース経営大学院MBA。2012年中小企業診断士登録。著書に『物語力で人を動かせ!』(三笠書房)、経済広報センター月刊誌「経済広報」で「マスコミ対応Q&A」連載(2010年4月～9月)。

■受講料：1名(税込・資料代含む)

正会員	31,500円	本体価格 30,000円
一般	34,650円	本体価格 33,000円

■参加要領

申込書はFAX、または下記担当者宛E-mailにてお送り下さい。以下の当会ホームページからもお申込頂けます。(http://www.bri.or.jp)

後日(開催7～10日前までに)、受講票・請求書をお送り致します。

*FAXご送付の際は、FAX番号をお間違えないようご注意ください。

*会員企業のご確認、その他セミナーに関するご不明な点につきましては、当会ホームページより〔TOP〕→〔公開セミナー〕→〔よくあるご質問〕をご参照下さい。

*お申込後のキャンセルはお受けしかねますので、ご都合が悪くなった場合、代理の方のご出席をお願い致します。

*最小催行人数に満たない場合は、中止とさせていただきます。

■お申込・お問い合わせ先

一般社団法人企業研究会 担当：篠原

E-mail: shinohara@bri.or.jp

TEL:03-5215-3550 FAX:03-5215-0951

〒102-0083

東京都千代田区麹町 5-7-2 麹町31MTビル 2F

企業研究会 セミナー事務局宛

FAX 03-5215-0951

*当会ホームページ (http://www.bri.or.jp) からもお申込みいただけます。

131624-0404(※)		2014.1.22	
申込書 社員の不祥事における広報対応のポイント			
会社名	フリガナ		
住所	〒		
TEL		FAX	
お名前	フリガナ	所属	
		役職	
Eメール			
お名前	フリガナ	所属	
		役職	
Eメール			

*お客様の個人情報は、本研究会に関する確認・連絡、および当会主催のご案内をお送りする際に利用させていただきます。

*講師と同業、同職種の方は、ご参加いただけない場合がございます。予めご了承ください。

社員の不祥事における広報対応のポイント

～ケーススタディを通して学び、明日からの危機管理広報に活かす～

2014年1月22日(水)

● プログラム ●

- 解説 -
13:30

■講師 (株)エイレックス 代表取締役／チーフ・コンサルタント 江良 俊郎 氏
取締役副社長／チーフ・トレーナー 平野 日出木 氏

1. 社員の不祥事における報道の傾向
 - ・ 個人の犯罪か組織的な関与か
 - ・ メディアの追求のポイント/記事が大きくなる時
 - ・ 社会部記者の捉え方/メディア対応の巧拙
2. 社員の不祥事発覚時にとるべき広報対応とポイント
 - (1) 時系列で考える広報対応の手順とポイント
 - ・ 初動対応に必要な視点
 - ・ 公表すべきか、しなくていいのかの判断基準
 - ・ 記者会見、ニュースリリース、HP上における情報開示の実務対応とポイント
 - ・ 想定Q & Aの作成方法
 - ・ 広報部における不祥事対応のポイント
 - ・ 記者以外への対応とポイント ～社内、顧客、取引先、株主 等～

※演習1. 社員の不祥事を公表し謝罪すべきか、控えるべきか
3. 社員および被害者等の名前の公表は控えるべきか、すべきか
 - (1) アルジェリア人質事件に見る企業の対応と実名報道
 - ・ 事件の概要
 - ・ 企業の対応とメディアからの批判/大手メディアの見解とネット世論
 - ・ 企業のあるべき対応とは
 - (2) 広報部門が把握していない状態で記者から問い合わせがあった場合の留意点
 - (3) 加害者側企業の情報公開内容とは/被害者の名前を公表する時
 - (4) 実名報道をされる事件、されない事件
 - ・ 実名報道があった場合の留意点

※演習2. 社員の個人名を出していいか、控えるべきか
4. ケーススタディを通して考える適切な広報対応とポイント
 - (1) 通勤中に痴漢で現行犯逮捕
 - (2) 飲酒運転での逮捕
 - (3) 経営幹部が贈収賄事件に関与
 - (4) twitter 上でアルバイト、派遣社員が機密情報を漏洩した
5. 平時から行っておくべき危機管理施策と留意点
 - (1) 広報部内における危機管理対策マニュアルの作成と共有
 - (2) 危機対応演習、メディアトレーニング
 - (3) コンプライアンス強化 ～社内へのコミュニケーション施策～

17:00